

「社会健康医学」基本計画策定委員会（第2回）会議録（議事要旨）

日 時	平成29年7月5日（水）午後2時55分から午後4時25分まで
場 所	ホテルアソシア静岡 15階「ベラビスタ」
出席者 職・氏名	出席委員：12名（敬称略） 本庶佑、鬼頭宏、佐古伊康、田中一成、鶴田憲一、徳永宏司、 中山健夫、宮田裕章、宮地良樹、望月律子、山本清二、山本敏博 欠席委員：なし 事務局 副知事 吉林章仁 健康福祉部長 山口重則 健康福祉部部長代理 池田和久 健康福祉部理事 壁下敏弘 健康福祉部理事 土屋厚子 健康福祉部管理局長 前島稔生 ほか健康福祉部職員
議 題	1 静岡県が取り組む医療ビッグデータの活用について 2 静岡県が取り組む施策の体系化や臨床研究のための疫学研究について 3 その他
配布資料	議事次第 「社会健康医学」基本計画策定委員会委員名簿 資料1 「社会健康医学」基本計画策定委員会（第2回）について 資料2 医療ビッグデータの活用 資料3 施策の体系化や臨床研究のための疫学研究 参考資料1 「社会健康医学」基本計画策定委員会（第1回）における 意見 参考資料2 社会健康医学関連新聞記事 参考資料3 全国における医療ビッグデータを活用した研究事例・疫学 コホート研究事例

1 審議事項

- (1) 静岡県が取り組む医療ビッグデータの活用について
- (2) 静岡県が取り組む施策の体系化や臨床研究のための疫学研究について
- (3) その他
- (4) まとめ

2 審議内容

山口健康福祉部長から、資料2により「静岡県が取り組む医療ビッグデータの活用」について、資料3により「静岡県が取り組む施策の体系化や臨床研究のための疫学研究」について説明した後、各委員による議論を行った。

- (1) 静岡県が取り組む医療ビッグデータの活用について
 - ・ D P C (包括医療費支払い制度)やレセプトをつなげる取組は、短期でも実現可能。
 - ・ 臨床現場にあるカルテのデータを活用することは個人情報保護の関係からハードルが高く、課題がある。
 - ・ 医療データについて、条例の制定を含め、静岡なりのルールを作り、県民に理解してもらえることが必要。

- (2) 静岡県が取り組む施策の体系化や臨床研究のための疫学研究について
 - ・ 予防医療と適切な治療は両輪であり、健常である人についての長い追跡と病気になった人のデータをきちんと分析していくことは、健康寿命の延伸に役立つ。
 - ・ 医師や看護師等が臨床現場の課題について、学位も取りながら臨床の目線で研究し、その成果を臨床に戻すことは有益である。
 - ・ 疫学コホート研究は、1950年代に予防医学の観点から研究が始まったが、2000年前後から、ゲノム疫学がコホート研究に上乘せされてきた。

- (3) その他
 - ・ 臨床現場の漠然とした疑問を、データなどを活用した研究にまで持つていくための拠点が必要。
 - ・ 100年先を見据えた長期的な視点に立って継続的に研究を進める必要がある。
 - ・ 長期的な視点で考えたとき、教育（人材育成）を行う拠点が必要である。
 - ・ MPH（公衆衛生学修士）のような学位を取れる人材育成が大切である。
 - ・ 研究単発ではなく人材育成もするとすると、研究所なり大学院が必要となる。
 - ・ がんセンターや県立総合病院などを経営するつもりで、県が覚悟を持ってそれなりの拠点を作る必要がある。
 - ・ 社会健康医学の研究の推進は、県民の健康寿命延伸のための研究である。県民の理解の徹底や県民議論の場を提供する拠点が望まれる。

- (4) まとめ
 - ・ 医療データや疫学の研究には、県民のコンセンサス（合意）づくりが重要。
 - ・ 100年先を見据えた長期的な視点に立って進める必要があると同時に、短期的にも、県民へ研究成果を還元しながら進めていく必要がある。
 - ・ 医師、看護師、関連業界など医療関係者全般が関心を持てるような仕組みの下で人材育成を行うことが必要。医師会には中心的な役割を担うことが望まれる。